

大阪水上隣保館の木造施設群 創立30周年頃(1960年代前半)まで  
中村遙が常に持ち歩いていた絵葉書より 右側写真：創設者・中村遙・八重子夫妻

感謝  
**水上の友**

発行 社会福祉法人  
**大阪水上隣保館**  
〒618-0001  
大阪府三島郡島本町  
山崎5丁目3-18  
発行人 黒川 芳 朝  
編集 広報委員会  
法人事務局 075-961-0711  
F A X 075-961-1144  
<http://www.osakasuijyorinpokan.com/>  
印刷所 (有)木村桂文社

創立九〇周年に想つ

「美はしき幻」

法人評議員 秋山 智久

老人は夢を見、若者は幻を見る

―旧約聖書ヨエル書三章一節―

山崎の地、大阪水上隣保館の敷地に建つ「美はしき幻」の碑、中村遙先生が詠まれた「我ら苦難の中に美はしき幻を見ながら此の山をひらく」は、深く人の心を把えて離さない。

若き遙先生はどのような幻を見たのであろうか。同志社大学神学科を卒業した翌一九三一年、大阪築港で水上生活者の子どものたちの生活の面倒を見、船から転落する命を護ろうとした初期の幻は、「命の保護」であった。

やがて戦争によってその拠点が焼失したことから、山崎の天王山麓の山林に越して、学生ボランティア等と荒れた林を切り拓いた時、子どもたちの「健全な発達」が第二期の「幻」となった。やがてその地域で保育園・幼稚園に着手し、地域福祉の活動を始めたのが第三期の「幻」であった。

こうした事業には優れた人材を要す

二〇二一年標語  
もし愛がなければ  
いっさいは無益である  
―コリントの信徒への手紙二― 三章三節―

る。そこで、自ら保育者養成のためにキリスト教保育専門学院を創設し、また、その視野をアジアにも向けたのが第四期の「幻」であった。

まさに「山のあなたになお遠く」を見つめる姿であった。その苦難の日々は「忍耐する者は必ず勝利する」と信じての道であった。幻はさらに高齢者施設、障害児施設等、後継者たちによって引き継がれていく。

私が同志社大学院生の時、就職先を探して恩師に相談に伺い、実に青臭いことを言ってしまった。「日本で一番過酷な福祉の現場に行きます」。

そして紹介されたのが、大阪水上隣保館であった。冬の朝、寝室に雪が吹き込むような宿舎に帰る時、厨房のおばさんから、「チヨット、チヨット」と手まねきされて渡された大根の尻尾が実に嬉しかった時代であった。

その後、私は恩師の推薦でキリスト教福祉系大学に転職したが、一九九〇年頃まで毎年夏には、二十人程の学生を引き連れてワークキャンプに二十年間通い続けた。

当時、民間社会福祉施設の経営は非常に厳しかった。遙先生は、主要な会社に寄付を求めて訪問されていたが、その折、何回か運転手として同行した。その時の強烈な思い出がある。大抵の会社では、せいせい主任クラスの方が

短時間、慇懃に話を聞いたうえで、「今日はこれくらいで」と少額が入った封筒を差し出されて、実に要領よくお終いとなるのが通例であった。

しかし遙先生は言う、「このようにして訪問した会社宛てに年四回くらい挨拶の絵葉書を書いて、十五年くらい経つと、こちらを向いてくれることもある」。遙先生はカバンの中にいつも数枚の隣保館の写真の絵葉書を持っていて、ちよっと時間があると独特の字で依頼文を書いていた。

そして遙先生はさらに言う、「自分のためにお金をくれというのは恥ずかしいが、ごもたちのためなら股の下でも潜る」と。ここに、忍耐に支えられた謙虚で壮大な「幻」があった。

(元逢学園児童指導員)

暑中お見舞い申し上げます

彼らは、患難のために激しい試練を受けたが、その満ちあふれる喜びは、極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て惜しみなく施す富となったのである。

―コリントの信徒への手紙二― 八章一節―

依然としてコロナ自粛を余儀なくされていますが、「明けない夜はない」とシエイクスピアも言っています。今から明日のための備えを心がけたいものです。

二〇二一年 盛夏

社会福祉法人 大阪水上隣保館

## 創立九〇周年を感謝して

理事長 黒川 芳朝

### いじめごっこ

今から九〇年前、解はで暮らす「水上生活者」の子どもたちを預かる施設として出発した大阪水上隣保館は、本拠地を大阪市港区から島本町に移し、今では社会的養護施設を中心に、二法人二十余の施設（付帯事業を含む）を運営する我が国多数の社会福祉法人に成長致しております。これも永年にわたる当法人の働きを力強くお支え下さった大勢の皆様方のお陰と心から感謝申し上げます。

今はごき創設者中村遙・八重子夫妻は、幾多の苦難をその都度信仰によって克服され、今日の礎を築いて下さいました。その後を受け継いだ多くの役員も、キリスト教の「隣人愛の精神」を羅針盤に、日々の業務に邁進しておりますので今後ともお支え頂きますようお願い申し上げます。

時節柄、記念式典等の行事は行いませんが、この節目に当たり以下の記念事業を行うことと致しました。

### 記念事業 その一

#### 「障害者自立支援拠点」の整備

法人では既に、在宅養育支援センター「みゆき園」（二〇〇六年開設）を運営していますが、放課後等デイサービ

スや日中一時支援等に限られ、障害者の自立を総合的に支援する取組みにまでは至っておりません。特に、重度の障害を持つ子どもは支援学校を卒業と同時に行き場のなくなるケースが大半で、本人も保護者も悲嘆に暮れるのが実情です。

当法人の基本理念は、隣人愛の精神に基づく「援助を求める人がいるならば、ためらわず手を差し伸べる」です。そこで当法人は、創立九〇周年事業として、新たに障害者の自立支援に着手することとしました。

された「強情な子」戦争孤児の自分史」を自費出版されました。法人創立九〇周年にあたり、著者のご了解を得て、記念出版として再編・刊行（B5版二八〇頁）致しました。お手元にお届け出来なかつた方も大勢おられると存じますが、多少の在庫がありますのでお送り致します。併せて、この図書について大阪水上隣保館の在・卒園児や法人役員など関係者を対象に「感想文コンクール」(中高生・一般部)を実施しました。



新施設の完成予想図

障害者は自らの選択で「障害者」になったのではなく、当然一人の人間として生きる権利を有しています。

- ・ 整備場所…島本町広瀬二丁目
- ・ 敷地面積…約一八〇〇㎡
- ・ 施設…木造平屋建て約六〇〇㎡
- ・ 事業予算…約二億二〇〇〇万円

**お願い** 本年に入り世界的に建設資材の木材価格が大幅に高騰しており、予算を大きく上回る事が想定されます。どうか皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。

### 記念事業 その二

#### 「強情な子」記念出版と

#### 読書感想文コンクールの実施

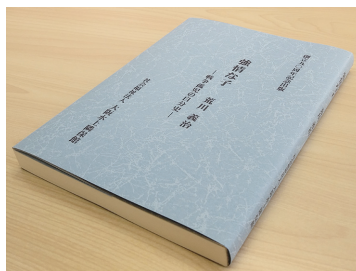
戦争孤児として大阪水上隣保館に保護された荒川義治氏（一九三八年生まれ）が、その後法人内で生活しながら創設者中村遙先生の想いを汲み取り、大変な苦労を重ね、キリスト教の牧師になって国内外で活躍された様子を記

### 記念事業 その三

#### 「桜の追加植樹」の実施

当法人敷地の桜は、一九七三年に日本本の桜名所百選（朝日新聞）に選ばれましたが、その後の台風等により減少が続いたため、八〇周年に法人役員や支援者に呼びかけ五〇本の記念植樹を行いました。

今回新たに関係者のご協力を得て、十八本の追加植樹を行いました。ソメイヨシノの寿命は六〇年と言われますので、今後も継続して植え替え等を行う必要があると考えております。



# 創立80周年（2011年）から10年の歩み

【2013年4月】

子育て支援事業 さぶり村野（枚方市）開設  
ファミリーポートひらかたに次ぐ事業として  
枚方市の子育て支援に貢献しています。



【2018年1月】

児童養護施設「翼」・乳児院小規模グループケア「たんぽぽ」（豊中市）開設  
豊中市初の児童養護施設・乳児院です。



【2018年～2020年】

弥栄の郷 大規模改修  
老朽化による改修工事を実施。今後も快適な生活となるよう改修していきます。



【2019年3月】

山崎幼稚園「どんぐりかん」建設  
地域のニーズに応えるため、三歳未満の子どもたちの保育を拡大しました。



【2019年4月】

里親支援機関「おひさま」（枚方市）開設  
乳児院の付帯施設として、里親の拡充、支援に取り組んでいます。



【2019年11月】

附属診療所「さくらクリニック」（島本町）移転  
念願だった町中への移転ができました。地域に根ざした医療を実施していきます。



【2020年3月】

山崎幼稚園園庭（A号館跡）拡充  
園児数の増加に伴い、子どもたちの遊びの場を拡充しました。



【2020年5月】

事務所前広場整備  
崩落の危険があった地下倉庫を撤去し、安全な広場として整備しました。



【2020年6月】

地域小規模児童養護施設「あけぼのホーム」（高槻市）開設  
遙学園三カ所目の小規模ホームとして開設。



### 創立九〇周年に寄せて

#### 私の青春

藤田多美子(旧姓:鎌田)

九〇周年おめでとうございます。母に「温かい涙流してあげるんやで」と送り出された日から五七年にもなるんですね。隣保館での日々の生活は、私にとって青春そのものでした。

遙先生に連れて行ってもらった南禅寺では、その途中で会社の前に私たちを待たせ、寄付のお願いに、ぶかぶかの靴音を鳴らして入って行かれた姿が目に残っています。

少しでも安く新鮮な物をと、中央市場まで買い出しに行かれてたママ先生、おやつ係だったおばあちゃん。大きな大きな家族でした。その意思を継承されている皆様に感謝しています。

隣保館での絆が、今も私を支えてくれています。一〇〇周年にはみんなと集まるのを楽しみにしています。元気でいきましょうね。(旧職員)

#### 隣保館の思い出

村上柚美(旧姓:吉廣)

創立九〇周年おめでとうございます。私は両親が病弱だったため、一〇歳の時に姉や弟たちと隣保館にお世話になることになりました。それぞれが各部屋に分かれ、私は「泉組」という部屋で生活することになりました。でも

子ども同士なので割に早く馴れ、まるで兄弟姉妹のようでした。そして、館長先生、ママ先生、諸先生方のお陰で一年を通して楽しい行事が一杯で、大変楽しい思い出をさせていただきました。

住み込みで働きに出ても長続きせず、よくママ先生のところへ転がり込んだものです。そのたびに温かい言葉で受け止めてくださり、本当に救われました。現在私は七五歳。まだ仕事をさせてもらっていますが、これからも感謝の気持ち忘れず、今までのお返しとは行きませんが、少しでも人様の役に立てるよう、日々過ごしています。(一九六一年度卒園)

#### 隣保館の思い出と現在の私

藤森まさ子(旧姓:吉田)

この度は九〇周年を迎えられ、おめでとうございます。私は五〇年くらい前に二歳から一五歳まで隣保館で育ちました。

その当時の物資は豊かではありませんでした。亡き館長先生やママ先生は子どもたちが喜ぶよう、様々な工夫をしてくださっていたのを今でも鮮明におぼえています。クリスマスには、枕元に大好きな人形が置かれています。

大事に、大事にボロボロになるまで一緒に過ごしました。隣保館を出た後、二歳で素敵な旦那と出会うことができ、一人娘を授かりました。今では二人の孫のおばあちゃんです。その孫も無事に独立しています。これも全

て神様の導きかな、と思っています。残り少ない私の余生、元氣いっぱい、コロナに負けないよう、誰からも好まれる、面白いおばあちゃん、吉田まさ子でいたいのです。(一九六八年度卒園)

#### 私の誇り

荒木咲子(旧姓:大庭)

二十数年前、私が勤め始めた頃に出会った女の子の話です。幼児だった彼女は、初対面の私に「しばくそ」と巻き舌、低い声で暴言を浴びせました。衝撃を受けた事は今でもはっきりと覚えています。

そんな彼女と一緒に生活をし、関係を深めていくと、心を開いてくれるようになりました。甘え下手で何かと一人を抱え込んでしまい、反抗的な態度をとってしまう反面、真面目で几帳面で面倒見が良く、優しい性格でもありました。それで降も、長く在園していましたが、親子関係で悩んだり、不登校になったり、しんどい経験も多くありました。卒園してからもきつという

ような事があったと思います。立派な大人になった彼女は、現在、仕事を頑張る、前向きに元気に過ごしています。私の誕生日にはお祝いのメッセージをくれます。気遣いのできる素敵な女性へと成長しました。そんな彼女は私の誇りです。(旧職員)

#### セーフティネット

岩本 守

東京の後輩から電話がかかってきた。「守くん、弟が入院してん。悪いけど様子見ていってくれへん」

元職員の方にも連絡して見舞った。その後、弟君の職場のタクシー会社に足を運び、状況を説明した。一四人の子どもが寝食を共にしたかつてのホームの仲間、日頃の付き合いはないが、何かあると連絡がかかってくる。

児童養護施設で育った子は一五歳あるは一八歳で社会に出ていく。それまでは守られているが、卒業後は社会の荒波に晒されていく。アル中、ギャング、離婚、性風俗、一旦こけると転落し、なかなか自力で立ち上がるのが難しい。

弱く細くなった人と人の絆、このような情勢のもと、普通のくらしができるように支えていくセーフティネットをいかに構築していくのか、古くて新しい課題である。(一九八二年度卒園・茨木市議会議員)

#### つぎの経験

渡邊百合

先日、アルバムを何気なく見ていると、いろんなことを一気に思い出しました。私は小三でひびぎに来て、中三までの約七年を過ごしました。ひびぎでの生活は「自分の原点」だと思っています。たくさん大人の人がいて、たくさんの子

どももいて、そんな大勢の人と過ごすなんて、家では絶対に経験できなかったこと。その当時は、いじめられたこともあったし、自分のことだけで必死だったり、人との関係でしんどい気持ち溢れてくることもありましたが、でも今振り返ると、その時の経験が今の自分につながっていると思うのです。自分のことだけでいいだった私が、「人」に興味をもてるようになったこと、それは私にとって大きなことでした。

この経験から「絶対福祉がいい」と大学は福祉学科に進みました。

今春、社会人となった私の仕事は福祉関係ではありません。でも、社会人経験を積んで、いつかはやっぱり福祉の仕事がしたいと思っています。

(二〇二二年度卒園)

**当たり前の大切さ**

福岡さえ子 (旧姓：深町)

遙学園を離れてもう二十年あまりになります。卒園した子たちの話を聞いて感じるの、子どもたちの記憶や、大切にしている思いは、私たちが普段さりげなく当たり前のようにやっていたことなんだな、ということ。K君は勉強が遅れていて宿題をするのも大変でした。私はKくんにつきっきりで勉強を教えました。でもK君が卒園式の答辞で話した言葉は「手を切った時病院に連れて行ってってくれてありがとう」でした。

私は今、他の児童養護施設で働いています。「子どもたちは私たち職員の一部を見ています。子どもたちがケアをされたと感じるのは、必ずしも私たちが意識して一生懸命やっていることとは限らない。だから私たちの子どもへの向き合い方そのものが問われている」と自覚して働かなくては思うのです。私は多くの先輩方から言葉ではなく、存在から多くの事を教わりました。今私の後に続く職員たちにも、私のこの自戒を私という存在で伝えていけたらと思う今日この頃です。

私は今、他の児童養護施設で働いています。「子どもたちは私たち職員の一部を見ています。子どもたちがケアをされたと感じるのは、必ずしも私たちが意識して一生懸命やっていることとは限らない。だから私たちの子どもへの向き合い方そのものが問われている」と自覚して働かなくては思うのです。私は多くの先輩方から言葉ではなく、存在から多くの事を教わりました。今私の後に続く職員たちにも、私のこの自戒を私という存在で伝えていけたらと思う今日この頃です。

**雫の添うとすいじ**

友光恵理子 (旧姓：田畑)

十数年前、ひびきで担当していた児童の話です。日々、暴言や暴力、不適応行動が続いていたAちゃん。ある日、いつものように注意を続けていたところ、ふいに窓から逃げ出してしまいました。その姿を見た時、支援の仕方について、今立ち止まって考え直すべきなのではと感じさせられました。その時は、ただただ二人で仰向けに寝転んで空を流れる雲をのんびり眺めました。私もAちゃんもいつの間にか心身ともに疲弊していったのだと感じました。もっと雫の添ってあげたら良かったと気付かせてくれました。

卒園して数年後、Aちゃんは私に、当時は聞いたことがなかった「ありがとう」と「あの時は迷惑かけて、ごめんなさい」という心からの素直な言葉を

伝えてくれました。また、私のために手作りハンバーグも作ってくれました。これらの経験からいろいろなことを学び、現在子育て中の私にとっては、欠かすことのできない大切な思い出となっています。子育てが落ち着けば、週末里親などで貢献できればと考えています。

**遙学園での生活、そして今**

川東慎太郎

私は四歳から中学校を卒業するまでお世話になりました。

もう卒園してから七年経ちますが、遙学園での生活から「自分でやることをやり遂げること」と「一人で抱え込まないこと」の大切さを知ることができました。どちらも当たり前と言えませんが、幼い時から遙学園で決められたルールで生活することで自立力がしっかりとついたらと思います。

また、多くの友達や親身になってくれる職員の方々がいてくれたおかげで何か悩んだら抱え込まずに必要な時は相談できるようになったと思います。現在は大阪大学理学部を卒業して大学院に進学しましたが、大学四年生の時に競技ダンスの全国大会で個人三位になったのもあって競技ダンスのブローになることを考えて休学しています。この先どのような生活になるか不安ですが、遙学園での経験を活かして過して頑張ろうと思います。

(二〇二二年度卒園)

社会福祉法人 大阪水上隣保館	
理事長	元大阪府教育長 (学)山崎学園理事長 黒川芳朝
常務理事	児童養護施設遙学園施設長 村井徹
理事	衣目修三
同	延原正海
同	岩村一彦
同	水本行彦
同	川淵敬子
同	杉本美由紀
同	伊田和彦
同	秋山智久
同	加藤曜子
同	徳正久
同	藤井敬久
同	山田裕子
同	上田恵美子
同	加田哲二
同	濱口美雪
同	藤田啓史
同	山堀幸雄

事務局	
主事	大枝孝之
同	村上弘
同	竹崎幸
同	高嘉史
同	丸谷邦江
同	井上幸久
同	山崎弘美
同	安野千香子
同	久原千香子
同	飯田千香子
同	幸島千香子
同	藤島千香子
同	斎藤千香子
同	大森弘子
同	山崎弘子

# みんなの広場



カット絵・4歳 女児

## 五〇もんテストにばいっ

小四 女児

学校のしゅくだいになにを書こうか  
まよったけどもうすぐ学校で五〇もん  
テストだから漢字の勉強をしました。  
そのときに漢字のかきじゅんがちがう  
と思い、いしきを試してみました。する  
と、うまくかけて字もきれいにかけた  
からうれしかったです。そして漢字を  
いしきするだけでもっと字をうまくか  
くことができてうれしかったです。

## 学校でがんばるいっ

小六 男児

ぼくは五年生の時、なわとびがとべ  
なかつたけど、まい日休み時間に友だ  
ちと先生と練習して七九回とべるよう  
になりました。とてもうれしかったです。  
休み時間、友だちと外遊びをするのが  
一番楽しいです。まごロ早くおき、ちゃ  
んと学校へ行き、いっぱい遊びたいで  
す。

そして、六年生は、字をきれいに書  
くことをがんばります。

## 友達とのたのしいはなこ

中一 男子

ぼくは、中学二年生の不登校です。  
でも、とても楽しい学校生活をしてい  
ます。理由は、一年のときに一回休ん  
でしまつて、いまでも苦しいでいま  
す。だから前を向いて学校にいけるよ  
うにしています。友達とはなしの中に  
「しせつってどんなかんじ？」ってあ  
げられるけど、ぜんぜんきにしてない  
から、すこしなやめけれど、なんてい  
たらいいかわからないからすこしかん  
がえるけれど、けっきょく「ぶつう」  
でかえています。でもちいぎの人か  
らはしせつの人ってどんなイメージか  
なってよくおもつて、たまに口にして  
友達にいいますが、またしてもぶつう  
でかえられます。こんなはなしがたの  
しいから、不登校のぼくも学校にい  
くゆづきがでできます。これからもが  
んばって学校に行きます。このごじせ  
いですが、みなさんがんばつてコロナに  
打ちむかひましよう。

## 五七五作文

小一 男児

とみおかの しことはおにを  
きることだ  
あめの日に ぴよんぴよんはねる  
かえるがね



▼経験したことのないような一年が過  
ぎようとしておりますが、職員の皆様  
子どもさんたちお変わりございません  
でしょうか。来るべき年が安心して暮  
らせる毎日でありますように、お祈り  
しております。 四條畷市 太田節子

▼荒川義治様の著書をお送り頂きまし  
てありがとうございます。大変なご  
苦勞をされ、力強く生きてこられたこ  
とに敬意を表します。 島本町 中嶋明美

▼井上裕太さん、あなたはすばらしい  
文章を書きましたね。もう立派で素敵  
な青年に成長された証し。これからは  
自分の夢に向かって歩んで下さい。そ  
れが世話になった人々への恩返しです。  
名古屋市 安形邦男

▼井上裕太さんが高一までに三つの施  
設を経験され「親という感覚がわかり  
ません」という言葉には、自分がいま  
で当たり前と想っていたことが「そつ  
ではない人たちもいるのだ」と初めて  
理解できました。 島本町 齊藤悦子

▼苦難の時をお一人おひとりのご苦勞  
によって、子どもたちやおとしよりの  
皆様が護られていることと感謝いたし  
ています。神様が、子どもと大人たち

全てをいつくしんで下さっていると信  
じ祈ります。 東京都町田市 川谷恵子

高槻市 高木美紗・誓子

## 遙学園見学会感想から

遙学園を見学して初めてこんなにも  
たくさんの、また多様な事情の子ども  
たちが生活していることを知りました。  
感じたのは、職員の方々が明るく、と  
ても熱心に働いておられることです。

遙学園の保育園児さんが「ただいま！  
」と元気に帰ってきた声を聞いた  
とき、胸が熱くなりました。子どもた  
ちが安心して帰ってくる事ができる  
場所であることがわかりました。  
山崎幼稚園母の会

## 訃報

守永秀則さん

(二〇二一年四月五日召天)

遙学園卒園生

館に一番近い卒園生の突然の死に悔  
いが残ります。

野村義照さん

(二〇二一年六月八日召天)

元法人評議員・画家

「ゆりの礼拝堂」建設のため多大な  
ご尽力を賜りました。

御霊の上に神様の祝福が豊かにあり  
ますようにお祈り致します。

児童養護施設 遙 学 園

「コロナに負けない成人の集い」

毎年、一月一日には、卒園して二年経つ子どもたちが「成人の集い」で施設を訪れてくれます。卒園生や旧職員も来園し、子どもたちの成長した姿を見ながら懐かしい思い出話に花が咲きます。

このコロナ禍で成人の集いをしてよいのか：自粛すべきでは？等々悩み、話し合いを重ねました。島本町の成人式は、分散開催とのことです。園長が「子どもたちにとって大事な思い出になるのだから、何としても行おう」と決断を下し、密を避けながら小規模にして決行することとしました。

検討に時間を要したため、案内も遅くなり子どもが晴れ姿を見せに来られるのか不安でした。着付けをするはずであった子が、なかなか来ないというハプニングはありましたが、女子も男子もたくさん集まってくれました。例年、園の事務所で開いています、できるだけ広い場所とさくら館に場所を変えました。

卒園生たちは在園時とは、違った表情をしており、当時のくだらない話に笑いが絶えず、時間はあっという間に過ぎていきました。すっかりお兄さんお姉さんになった

表情には二年でこんなにも変わるのだなと。仕事のしんどさや辛さを話してくれる卒園生たちを見てみると「本当に成長したな」と嬉しくなりました。遙学園は『ふるさと』です。毎年感じるのですが、子どもたちと一緒に昔話を語り合える機会を増やしたいなと思います。

そして、卒園後も相談にもっともって来て欲しいなと。子どもたちにとって昔を知っている職員がいるということとは、本当に素晴らしいことなんだと痛感させられました。

来年も成人を迎える卒園生に会えるのを楽しみにしています。そして、成長した子どもたちを見るとこの仕事をしていて良かったと心から思いましたし、子どもたちに負けないようにもっと頑張ろうと励みになりました。

(主任 狩野洋行)



児童養護施設 翼 (つばさ)

緊急事態宣言下のGW part2

翼に着任し二年目になります。去年は、ステイホーム。今年こそ子どもたちとお出掛け企画をと思っていましたが、五月に再び緊急事態宣言が出されました。

子どもたちからも「どこも行けへんやん！」と言葉が漏れます。しかし、こんな状況でも出来ることはあるはず。そう考え、男子フロアでは、子どもと職員全員での「地域ウォークラリー」の開催が決まりました。

三密を防ぐため、少人数ずつ、中学生は各々、時間差で出発など対策を練ります。また、ルールは校区内の公園に隠されたミッションを見つけてクリアしていく、というものになりました。寄贈で頂いたおもちゃやおかし等を景品として用意し、子どもたちは欲しいものを求め、いざ出発！

ミッションにはクイズに答えたり、マチカネくん(豊中市マスコットキャラクター)を探したり。中には『公衆電話で翼に電話をかける』というミッションもありました。

公衆電話に触れるのが初めてという子がほとんどです。緊張して恐る恐るかけてくる子もいれば、一語一句ハキハキとかけてくる幼児もいました。あ

る中学生は「ミッション見つからんねんけど?！」と必死に電話をかけてきたりしました。公衆電話が珍しくなった今、子どもたちにとっては貴重な経験になりました。

昼食は屋台形式で、焼きそば、たこ焼き、わたがし、シユース等、お腹いっぱい食べ、普段とは違う雰囲気を楽しみました。翌日は「翼シネマ」も開館し、大盛況のGWとなりました。

そんな子どもの笑顔や満足気な顔を見られるのも、職員冥利に尽きます。制限も多く、知らぬ間にストレスが溜まる時代ですが、子どもと職員全員で楽しむ企画となり、チームの一体感が増したように感じます。

これからも子どもたちの楽しみや喜びを考え、職員も一緒に味わえるひと時を、大切にしていきたいと思います。

(児童指導員 前田夢蔵)



児童心理治療施設

ひびき

服を選ぶようになるひびき

ひびき男子フロアでは、いつも外出  
 デイの時に子どもたちと一緒に衣服を  
 買っています。しかし、小学生が増え  
 るにつれ、子どもたちと一緒に服を選  
 ぶことが難しくなってきました。皆、お  
 もちゃを買うことに夢中で、服を買う  
 ところまで集中力が持たないからです。  
 そこで、小学生については、職員が  
 服を買ってくることにしました。子ど  
 もたちの普段着ている服を観察しなが  
 ら、子どもたちと欲しい服や好みのデ  
 ザイン、素材を考え、店頭で予算とコ  
 スパを考えながら服を選んでいきます。  
 与えられた服を着てきた体験の子ども  
 たちがほとんどです。最初は、「服つ  
 て自分が選ぶものなの？」という感覚  
 の子どもも多かったのですが、回数を  
 重ねるにつれ、「こんな服がほしいな」  
 「これをまた買ってきて」と言えるよ  
 うになりました。

小学校三年生Aくんは入所当時一年  
 生でした。彼はとても愛嬌のある子ど  
 もで、通院先で看護師さんのアイドル  
 になっているような子でした。服を買っ  
 てきて、「松岡さんが選んだ服なら  
 何でもいいで」「着る人おらんかった  
 ら松岡さんかわいそうやん」と言っ  
 てどんな服でも着ていました。実際、ど  
 んな服も似合う子でした。しかし半年  
 ほど経つと「ジャージみたいな物で、

地味なのがいい」と少しづつ希望を出  
 せるようになりました。

そこから一年、今度は「シーパンが  
 欲しいねん」「なんか、カッコいい」  
 と言いだします。彼がシーパンを履い  
 ている姿を見たことがなく、担当職員  
 も私も「本当に着るかな?」「シーパ  
 ンを知っているかな?」と思いましたが  
 そうは言っても、これがかっこいいと  
 思える感覚は今までの彼には見られな  
 かったものなので、それは大事にし  
 たい、と思い、奮発してストリートデ  
 ムを二本買いました。

彼は、「やったー」と大喜びで、そ  
 こからずっとシーパンで毎日過ごして  
 います。着たい服ができること、それ  
 が自分の肯定的なイメージと重なり  
 合っていくことというのは、ある意味  
 重要かもしれません。今後、衣食住  
 の「衣」の部分も大切にしながら、子  
 どもたちと過ごしていこうと思います。  
 (ケアワーカー 松岡貴子)



乳児院

♡ チョウチョヨになりたい

外で遊んでみると、ひらひらアゲハ  
 蝶が飛んできました。大きなアゲハ蝶  
 を見て、「怖い」と言っていたKちゃん  
 ひらひら飛んでいるのを一緒に見てい  
 たら一言、「Kちゃんも飛びたい」「K  
 ちゃんは飛べないね」と言っていると悲し  
 うな顔。「でもKちゃんは足でピョン  
 ピョン飛べるよ」と教えると笑顔にな  
 り、「見てー。Kちゃんはこうやって  
 飛べるよ」と得意な顔でアゲハ蝶に  
 話しかけていました。  
 (児童指導員 堀口桃恵)

♡ ハッピータイム

一歳五カ月のH君。食べるスピード  
 が早く、すぐにご飯がなくなり大きな  
 声で催促が始まります。好きなものは  
 パクパク、嫌いな野菜は口から出して  
 いました。「モグモグしようね」と声  
 をかけ、口の動きを見せてみると、少  
 しずつ野菜も食べられるようになりま  
 した。お代わりをしても大泣きのH君  
 笑顔でご馳走様が出来ることが当面の  
 目標?食べている姿は見ている方も  
 ハッピータイムです。  
 (看護師 藤田直子)

♡ 初めての誕生日

Yちゃんは五月で一歳の誕生日です。  
 誕生日の数日前からホームの職員にも  
 うすく一歳になるんだよ」と教えても

らっていました。Yちゃんは何のこと  
 かわからず困った顔をしながらも一  
 の指を立てる練習をしていました。当日  
 は、たくさんの職員に「おめでとう」  
 とお祝いしてもらい、とても嬉しそ  
 うにニコニコ笑顔のYちゃんは、一  
 の指を自慢げに見せていました。  
 (保育士 黒田満里愛)

♡ Aちゃんのいちご

昨年より始めたプランター菜園。朝  
 顔に続く第二弾。秋に苗を植え、五月  
 に入りやっといちごの実をつけてくれ  
 ました。触りたい気持ちを我慢して待  
 ち続けて、ようやく赤く色づいた日。  
 ドキドキしながら取りに行く先客  
 が「なめくじ!」Aちゃんが食べたかっ  
 た」と大泣き。その気持ちを抑えるこ  
 とが出来ず、栄養士さんに「イチゴを  
 たくさん食べたいです」と伝えに行き  
 今は次に赤くなる実を毎日観察して  
 待っています。(保育士 森美津子)





特別養護老人ホーム

# 弥 栄 の 郷

## 夕食前の一時の楽しみ

夕食前に毎日食堂で「みちづれ」「二輪草」「東京音頭」をカラオケのガイドボーカル付きで流すようにしています。イントロが流れ出すと手拍子をしたリリズムをとったり、中には踊りだす利用者の方もいて盛り上がっています。

毎日聞くことにより歌を覚えて頂くことと歌を唄うことにより顎を動かし嚙下を良くすること、利用者に夕御飯の時間だと認識を持って頂くこと等を目的としています。

カラオケ教室は一番人気のあるレクリエーションで、二年前前は週に一回ボランティアでカラオケの先生に来て頂いていましたが、コロナ禍でお休みになってしまいました。

それがなくなり少しでも活気を取り戻して欲しい、笑顔が見たいという思いで職員が時間のある時にカラオケを流し一緒に歌っています。歌が流れると利用者の表情が明るくにこやかに感じるような感じになります。

コロナが収まり、カラオケの先生が来られるようになるまで職員が盛り上げていきたいと思っています。

(介護職員)

河村由喜子



# 大阪保育福祉専門学校

## 専門学校五〇周年を迎えて

法人九〇周年と共に本校は五〇周年を迎えました。七千人を超える卒業生と在校生、初代学校長中村遙先生から繋がる教職員一人ひとりが、全力で積み上げた歴史です。この年に第四代学校長荒川義治先生の自伝が刊行されましたことも感慨深いです。

この間に「保母」は「保育士」となり国家資格へ。認定こども園の登場、様々な「子育て支援」、「契約」としての保育や福祉のサービス化、「社会的養護」の理念と現状との大きな隔たり、掲げられたインクルーシブ社会という理想と現実のギャップ、学ぶことが限らないです。

一方で前代未聞の保育者・社会福祉従事者不足の中、現実には「数」の確保と規制緩和に走りますが、私たちは遙先生の建学の精神に思いを馳せます。

「真に子どもに寄り添える保育者を目前で育てたい」そして遙先生亡き後その信念を「愛ある働き人の養成」と言語化し教育理念とした創設当初の教職員、それを現場で実践する卒業生の思いを受け、遙先生のおっしゃる「現場と学問に橋を架ける」ことに今の学生と勤しみます。

(学校長 安原千香子)



第1期生14名を迎えての入学式 (1971年4月)

学校法人 山崎学園

# 山 崎 幼 稚 園

## お山の上のアスレチック

緑に囲まれた山崎幼稚園。園の敷地内には、竹・桐・榎(エノキ)・樺(ケヤキ)・欒(クヌギ)・梅・桜・栗・樅(モミ)・枇杷(ヒワ)など漢字のお勉強みだいの大木が自然樹形のまま育っています。

春には新緑の美しさを教え、夏には木陰を与え、秋には落葉や実りを、冬には枝となり自然の厳しさや季節の移り変わりを教えてくれると共に、子どもたちの毎日を見守ってくれています。

メインの園庭の上にある『アスレチック』もまた自然に囲まれた園ならではの遊び場です。汽車型の大型遊具と大工さん手作りの大型木製遊具が並び、まさに「山の中の基地」のよう!

この春、二〇一四年度以来の大改修が行われ、ガラッと一新! ボルダリングや急勾配の坂板などがついた遊具が出来上がりました。「すっこーい!」「綺麗!」「こっち!」「こっち!」と目を輝かせて、夢中で遊び回ります。

その様子をみていた大工さんもほほえんでおられました。

緑に囲まれた幼稚園で遊ぶ中で自然に足腰を鍛えてハツラツと過ごして欲しいと思います。

(教諭 村上美幸)



山崎保育園



小さな小さな命うまれたよ

昨年の夏の終わりに散歩先で出会ったカマキリ。虫かごに入れてよく見るとお腹が大きいことを発見！餌をあげながら観察し冬前には虫かごのふたに卵をうんでいました。

そして、寒い冬をこえ季節は春に。卵も孵化を迎え、子どもたちが「あ、出てきてるー」と興味津々。たくさん小さな赤ちゃんが子どもたちに見守られながら産まれました。

小さな大切な命を子どもの手の平にのせて「元気でね」と広場に逃がす貴重な経験をしました。その後毎日のように「大きくなったかな」と探す子どもたち。大きくなったカマキリに会えることが今から楽しみです。

(保育士 高野恭子)

認定こども園 藤の里保育園



遠足こっこで色々形を見つけ！

五月下旬、幼児異年齢児ホームで遠足こっこに行ってきました。今月のテーマは「色・形」です。まずは、園周辺の散策をしました。ポストやマンホールを次々に見つけて、「赤色あったー！」「マンホールは〇(丸)！」と嬉しそうに言っている子どもたち。様々な発見に盛り上がりました。

次は園庭でのゲームです。担任からカードをもらい、同じ色や形の立方体を探しました。

今回は感染防止のためバスに乗って遠足に出かけることはできませんでしたが、園周辺や園内でテーマに触れながら楽しむことができ、とてもいい思い出になりました。

(保育教諭 松岡志穂)

みゆき園



ぱたぱたと

パタパタと音がする方に目を向けると一羽の蝶がもがいていました。飛べない様です。そのまま見過ごす事も出来たのですが、なんとなく気になって育ててみることにしました。

子どもたちも蝶を手に乗せて見るのは初めて「口がストローやあ」「歩いているー」と大はしゃぎ、「どうして飛べないの」「羽が曲がっちゃったからね」「ふーん」羽ばたく度に頑張れ！頑張れ！と応援してくれます。

一週間が過ぎ、ほんの短い時間なら2cmぐらい飛べるようになりました。よし！今度子どもたちと散歩だ。飛び回れないかもしれないけど空を見せてあげよう。生きるってしんどいけどすごいな！

(センター長 中川修二)

附属診療所 さくらクリニック



対策万全です

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい一年が過ぎました。さくらクリニックでも当初より試行錯誤しながら感染症対策を実施してまいりました。入口扉の外、受付前に自動アルコール消毒ディスプレイを設置、待合室は不特定多数が触れる本などは撤去し、窓は常時開放換気するなど環境を整え、子どもさんの来院時にはソーシャルディスタンスを確保するため、付き添いは大人一人とさせていただくようお願いをしています。病院には行きたいのに感染症が怖いと思われる方も多いと思いますが、少しでも安心して来院していただけるよう、基本の感染症対策を日々心がけています。

(事務員 松岡光代)

創立九〇周年記念出版「強情な子」  
感想文コンクール 優秀作品紹介

九〇周年記念出版「強情な子」の読書感想文コンクールには五三名の応募がありました。

【中学生の部】 六名  
【一般の部】 四七名

法人役職員 三八名  
卒園生等関係者 四名  
大阪保育福祉専門学校学生 五名

選考の結果、【一般の部】の優秀作品をご紹介します。

「創立九〇周年記念出版  
『強情な子』を読んで」

大阪保育福祉専門学校 一年 御内貴博  
『強情な子』を読んで、人にとって最も大切なことは何かを考えさせられた。当感想文では荒川義治先生の変わらぬ信念や思い、そしてそれを支え続けた奥様について感じたことを述べる。

読み始めでは『強情な子』は、単なる我儘で聞き分けの無い、いわゆる『自分勝手な子』と解釈していた。自分勝手な子ともは周囲から煙たがられたり、あまり関わらないようにしようと距離を置かれて孤独に陥る可能性が高い。しかし荒川先生の強情さは、一般的な強情とは解釈が異なっている。読み進めていくにつれて、それは『信念』と言いつ換える方が適切なかもしれないと感じる。引取先である叔父からの家出

浮浪児狩りの時の偽名、牧師を目指して神学部への進学、インド島での二毛作や養鶏場、ポナペ島からの招待など、その時々に応じて自身が本当にしたいこと、将来目指すべきものや本当に必要なことなどを考えた上での決断であり、強情さであったと感じられる。

しかし、これらは全て周囲の環境や交友関係などの障害により、断念せざるを得ない場合もある。普通なら周りに説得されたり、実現が難しい現実を目の当たりにされると、自分の考えや心情を方向転換せざるを得ないと感じるのが一般的であろう。そのような中、『強情な子』として貫き通す事ができたのは信仰心以外の何者でもない。

彼は児童養護施設時代にキリスト教の教えを学び、深く感銘を受けている。その結果神学部へ進学し、牧師として活躍されている。そしてそれが自身の価値観や生き方などの根幹にあったと考えられる。作中で何度も聖書の抜粋が見受けられ、自身とキリスト教が密接に関係していることが見て取れる。特に荒川先生の人生におけるターニングポイントにおいては必ずと言っていいほど関わっている。

ある意味、キリスト教の教えは荒川先生にとって人生の道標となっていたのかもしれない。戦後の日本では憲法で『信条の自由』が保障されているためか、無神論者であることを誰も咎めたりしない。それは偏見や差別をなくし、国民一人一人が『個人』として認められた存在になることを目的としているのであろう。しかし荒川先生のような功績は、自身の心情や経験、知識だけで成し遂げることが出来たとは考えにくい。

何らかの事情で、途中で挫折する人が大半である。そこには自分以上の存在『主』を

信じ、そして使命感を強く感じていたからこそ成し遂げたのではないであろうかと感じる。

そして何より、奥様の存在が大きい。単身でも様々な発展途上国へ赴き、農業による食糧確保や経済的成長も可能であったかもしれない。だがそこには多数の難問とも言える課題が存在し、精神的負担もかなりあったと推測される。そのような状況下において、やはり支えてくれる人が常にそばにいるということは、何にも変えられない存在ではないかと感じる。

荒川先生の信仰心故の行動の裏で、奥様が心の支えとして、常時寄り添っていたことはなかなか真似できることではない。当時は男尊女卑の考えがまだ残っていたとはいえ、最後まで寄り添い続けられる人はそう多くない。また、奥様は子どもを授かることが出来ない体であったことも、ある意味不幸中の幸いと感じたり人も少なからずいたと思われる。

子どもを連れて、衛生面など生活環境が整っていない国で何年も過すということは、非常にリス

クが高い。様々な依頼を受けて転居することが出来たのは、これも要因の一つだったのかもしれない。

当感想文では荒川義治先生の変わらぬ信念や思い、そしてそれを支え続けた奥様について感じたことを述べた。改めて信念を持ち続けることの重要性と、心の支えとなる人への感謝の気持ちをもち続けることの大切さを学んだ。周囲の意見を聞くことも大切ではあるが、それに振り回され過ぎず自分の信念に沿った行動をすることで、自分らしく生きていける。そして自分の信念を理解し、支えてくれる家族や周囲の人への感謝の気持ちを常に持ち続けなければならない。

これらが人生において何より重要であり、幸福なのだ感じた。上記を実践し続けることは容易ではないが、少しずつ実践して私も幸福な人生を目指したい。

感想文コンクール 募集のお知らせ

- ◆募集テーマ 「大阪水上隣保館創立九〇周年記念出版『強情な子』を読んで」
- ◆応募資格 ・中学生の部 大阪水上隣保館の現・元在籍児  
・一般の部 専門学校生以上の学生、水青会(卒園生・旧職員同窓会)会員、法人の現・元役職員、支援者などの関係者
- ◆応募様式 ・手書き、ワープロ(プリントアウトしたもの)で用紙は自由
- ◆文字数 ・中学生の部 八〇〇字～一五〇〇字程度  
・一般の部 二〇〇〇字程度
- ◆審査会 ・(審査委員)理事長、役員・施設長等四名で構成する選考委員
- ◆表彰及び副賞  
・中学生の部 優秀作品 一編(図書カード三万円)  
 入選作品 三編以内(図書カード一万円)  
 優秀作品 一編(図書カード五万円)  
 優良作品 二編(図書カード三万円)  
 入選作品 三編以内(図書カード一万円)  
・参加賞 選にもれた方に図書カード(千円)を贈呈します。
- ◆募集〆切り 二〇二一年五月三十一日(事務局又は各施設に提出)
- ◆留意事項 作品には氏名・住所・所属(関係者の場合は隣保館との関わりを明記)

社会福祉法人 大阪水上隣保館 [児童福祉 90年]

# 大阪保育福祉専門学校

〒618-0001 大阪府三島郡島本町山崎5-3-10 TEL.075-962-1115 FAX.075-962-9001

お問い合わせ・お申し込みは



▶お電話で

クイック フクシ

0120-919-294

▶メールで

ケータイからもOK!

pub@o-hosen.ac.jp

▶QRコードで

ケータイサイトから



9 山崎幼稚園



1 2 専門学校・本館・オリーブ館



3 専門学校・中村記念館  
みゆき園分室(1F)



4 児童養護施設 遙学園



児童養護施設 翼(豊中市)



5 児童心理治療施設 ひびき



10 山崎保育園

緑豊かな丘陵部に  
創設者の思いがつながる  
子どもと障害児者・高齢者の施設が立ち並んでいます

法人敷地内に、  
大阪と京都の府境界があり、  
建物によっては  
大阪府だったり京都府だったり。  
大阪からも京都からも  
とても便利なところで！

シード館  
みゆーず  
(分教室)

小羊保育園  
(施設内保育)

大阪水上隣保館  
乳児院

児童養護施設  
遙学園

児童心理治療施設  
ひびき

在宅養育支援センター  
みゆき園

地域交流センター・  
ゆりの礼拝堂

特別養護老人ホーム・  
デイサービス 弥栄の郷

創設者記念の家  
[さくら館]

大阪保育福祉専門学校  
[中村記念館]

山崎幼稚園

山崎保育園

山崎保育園

大阪保育福祉専門学校  
[本館・オリーブ館]

在宅養育支援センター  
みゆき園

特別養護老人ホーム 弥栄の郷

大阪水上隣保館附属診療所  
さくらクリニック(島本町)

子ども家庭支援センター・  
ファミリーポートひらかた(枚方市)

ファミリーポートサブリ村野  
(枚方市)



6 大阪水上隣保館乳児院



7 地域交流センター・ゆりの礼拝堂



ばんだのいえ(島本町)



11 みゆき園



12 さくら館



認定こども園 藤の里保育園  
(高槻市)



ファミリーポートたかつき  
(高槻市)



特別養護老人ホーム 弥栄の郷



大阪水上隣保館附属診療所  
さくらクリニック(島本町)



子ども家庭支援センター・  
ファミリーポートひらかた(枚方市)



ファミリーポートサブリ村野  
(枚方市)

豊かな自然環境の中でキリスト教の愛の精神に基づいた人格形成をします

# 山崎幼稚園

〒618-0001 大阪府三島郡島本町山崎5-3-1 TEL.075-961-3341 FAX.075-961-7296  
ホームページ <http://www2.yamazaki-k.e>